

部 外 秘

メコン河サンボール地点総合開発計画調査報告書とりまとめに関する打合会議議事録概要

(在文責 事業団開発調査部)

期 日 昭和42年11月3日 (月)

場 所 アジア経済協力センタービル

3階 会長室

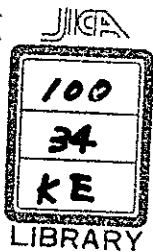
主たる出席者

井上理事、茨沢理事長、大戸理事、安菱顧問、
徳野参与、

農林省、日本経済技術コンサルタント、電源
開発、日本港湾コンサルタント、三祐コンサ
ルタント・インターナショナル、事業団開発
調査部長、課長、その他関係職員

昭和42年11月

海外技術協力事業団 開発調査部



国際協力事業団	
受入 月日 '64. 5. 18	109
登録No. 05744	34
	KE

PE 200
7/1
K

メコン河サンボール計画打合せ会

討議事項メモ

(アシ研 ヲ階 会長室)

(敬稱略)

新家一 (閉会の挨拶を述べ、発電、農業、舟航及び総合)
(取りまとめ担当各部門の担当者の紹介を行なう。)

安芸一 (農業に関して農業の最初の調査はカムを王ムケロ
ルセキ上げて、そこから自航でどこまでかんがいがで
きるかということであったなど これまでの全体の経
緯を説明し、計画対象地域のブロック化の種々の
Alternative を考えながら各ブロックの最適な開発を
考えており その過程でモデルを選んで、日本援助で
Pilot Farm が出来ぬかという申し出も現地側か
らあった旨述べた。)

また、舟航については、メコン本流計画のそもそもの
端緒であり、オーシャンライナーを如何にして、
Vientiane まで上げうるかが目的となっているので
あるが、現在 *Sambor* だけを考えた場合、上流の各
プロジェクトが完成してはじめて効果があり、サンボ

JICA LIBRARY

6)



1057943E1J

ール計画によって *Stung Treng* までの航行ではそれ程舟航改善に役立つとも思われず、舟航は将来どうであるかという目論見程度になるであろう。結局、*Sambor* としては電力のみを考えるより外はないのではないか？

井上 — *Sambor* より上流の舟航は問題にならないとしても、*Sambor* が出来たら下流での最低水位が下らないということで舟航上のメリットが考えられないか？

春田 — 上流計画が実現しない限り余りメリットは考えられない。

井上 — 現在考えられているかんがい範囲以外に、電力を利用して下流のより広大な地域のかんがいのメリットが考えられないか？

武田 — 外弁は 65,000 ha 程度あるが種々の理由によりかんがい対象地域は州境で区切り 34,000 ha しか見込まれない。カムができなければディーゼルエンジン駆動のポンプ揚水かんがいができる。*Sambor* が完成時のメリットとしてはその程度であり、上流計

画が実現した場合には 60~70万 ha の下流地域を
対象としたかんがいが考えられる。

大久保 — パイロット・ファームとしてやはり将来の地域農
業開発の呼水となる。

井上 — 茨水が肥料の代りになっている現状にとってダム
を作った為のマイナス面はないか？

武田 — 水没地が出るが、シルト淤滞によるマイナスは
ないと考えられる。恐らく Sambor の Reservoir
では水はそのまま流れるであろう (タイのパンヒーダムの
例をあげる)。たゞし水没補償の問題はある。

安芸 — ダム建設による上下流への影響はパンヒーの例で
も水路が乱れ航行できなくなる例があり、これに関連
してダム下流の河床の問題が現在研究対象になってお
り、メコン委からその調査を促進せよとの話がある。

大久保 — 水没農家 (約 2,000 戸) の吸収にパイロット・
ファームが役立つことが考えられる。

武田 — この問題につき現地で調査を委託し、クラチエ州
知事が相当詳細な調査をしてくれたが、遠い将来のこ
とでもあり、余り具体的な結果は得られない。

(14:00 理事長退出)

井上 — 将来舟航ロックを置く予定か？

倉田 — (図面につき説明の後) Sambor gam の完成により水の足が Sr. Treng まで行く。その水位の変動はない。乾季では Sr. Treng の設備を変えないと駄目であるが、雨季では Kohn Hell まで舟が行き得る。現在の計画としては取敢えずバーシと木材イカダかのるようなインクラインをカムに設備する。将来上流計画が実現した場合、改めてロックを作ったらよくその対象船舶は3,000トンとする。メコン委員会は2,000トンとしているがメコン河の出口が浅いので3,000トンとした。その際300万トンの貨物を扱い得る。

井上 — 漁業についてはどうか？

安芸 — 漁業については不明の呉が多く、上下流の魚産が変わるのかどうかも分らない現状では一応の設備を考えたおこらうという程度である。

大戸 — グラシ・ラックでは、漁業は大きな問題となっていてあるが……………。

井上 — タムによる影響はそんなにないと考えてよいのでは
ないか？ 実際にはタッチしないと結論して差しつ
かえないと思う。(トソレサツフはそのまゝにして置
いた方がよいと思う旨追加した)

新家 — (電力部門の説明はすでに理事長室で済んでいる)
ので、本日配布した資料「議題」につき討議し
たい旨発言。

井上 — 内部収益率 (IRR) は、世銀が金を貸す場合に
考えるべきことで、別に国際協定で定められたもので
はないと思う。

徳野 — Sambor が自流式の場合は 4.4, 5.3, 5.3 の
程度である。

井上 — Pa Mong が出来たら、日本的な考え方の下流増
負担として Sambor 側 (受益者) の名で銀行から金
を借りてその下流増分として Pa Mong に返してはど
うか？

全額をまわっていても 30 万円位増加するから、そ
の意味での協力と考え、難しいことかも知れぬが、数
字で割り切れればよいのではないか？

当初は、グラントかまたは商業的色彩のないものでないといけないということをはっきりさせてよいのではないか？

佐藤 — (資料により *Pa mong* の $\frac{2}{3}$ はローン、 $\frac{1}{3}$ はタイ負担の呉例をあげた後) *Sambor* ではどの程度にしたらよろしいか？

井上 — リポートを書くため前として半々とし、全体として4.5%と言わざるを得ぬだろう。今日の時世では、今後50年間電気をどうやって行くかなどの将来の利益を考えてはためであろう。

バモンとの関係はあった方が、バモン計画がやり易くなるが、何もこちらから先に言い出す必要はない。受益者負担は相手側が申し出てきたときに考えるべきで当方としては絶くまで *Sambor* を作ることのみを考えればよい。

Sambor の建設運営には、どのような形態にするか？、国際機関を考えているのか？、どこかにモデルがあるか？、カンボディアではとてもできない。

坂本 — それはメコン委員会の責任であるはずである。

井上 — カンボディアでは *Sambor* プロジェクトは独力で出来ないのでこうしろといったら、カンボディア側は不伏に思うであろう。

百塚 — メコン河の開発は、ヒエンチャンまでの航行が当初の目的であり、内陸の封鎖的経済から外向的に経済発展を目指すものである以上、一連のプロジェクトを考えねばならず、従って *international* なもの考えねばならないので、国際機関の設立が政策的に進められるべきではないだろうか？

井上 — 国際河川の開発で実際に国際協力によって出来た例はない（世界各国の例をあげる）。理想として国際協力機関をレポートに書くならよろしいが……。

その第一着手として *Sambor* をとり上げるとしたらその実現は難しい。先づカンボディアにイニシアティブをとらせたらどうであろうか？

大戸 — 国際機関の設立に関するようなことは *Sambor* の *フュージビリティ・レポート* に書くべきことであろうか？ それはメコン委員会が考えるべきことではないだろうか？

安芸 — Sambor の電力は *basin wide* で使えば非常に有利であり、そのための国際機関が必要であると考えらる。国際機関による管理の *merit* についてリポートで指摘することは必要であろう。

本流の一連の *Projects* の一つとして *System operation* とすれば *economical* であるということは書いてもよいのではないか？

井上 — Sambor 開発はメコン河総合開発とは区別して考えるべきだ。

サンボールを開発する機関を *recommend* する必要がある。

首藤 — 低利な金を借りたとしてもカンボディアは1億ドルの金を借りられる能力があるであろうか疑問である。

井上 — いろいろなことを書いて余計な混乱を起すことはない。

安芸 — 国際河川の管理については法律専門家とメコン委が招いて種々調査中である。

井上 — アラブ連合のアスワン・ダムなどの実例はどうなっているのか？

サンボールの電気の消費場所をシャヌークビルとす
ると言い切ってしまうてよいのだろうか？ 将来サイ
ゴンなどで消費するようになることができるとしても、そ
れはやうぬということになるが……。

徳野 — サイゴンの方が有利な面もあるが、一応カンボデ
ィアでサンボールの電力を消費するとした方が今後の
処理がし易いと判断し、シャヌークビルで立地可能で
あるとして、*Sambor* の電力を消化したらどうなる
かの試算を行なった。

安芸 — サイゴンは別に開発計画を持っている。

井上 — 若レタイエトナムにおける開発計画で有利なもの
があれば *Sambor* はできなくなるということで、世
銀は常に全体のバランスを考慮に入れているので、
Parallel には金を貸さない。

Sambor の *Report* 作成に当っては問題を絞り
Sambor はどうすれば一番実現可能性があるかとい
うことを考えるべきだ。そのためにはシャヌークビル
をこのようにするという計画内容が必要である。

料金の問題については、試算程度にしてカンボディ

アにボーキサイトが出るなら別だが、それもなければ、
カーナの真剣のように遠くメキシコ湾からアルミナを
運びインゴットにして出すというアルミ工業が成り立
っているのです。そのような *Commercial base* で
国際水準にかなう企業が *invite* できるとしな書け
ぬ。

農業、舟航その他の部門でそれほどの *benefit*
がないのであれば電力部門で *Commercial base*
で国際企業を *invite* できるということを書いたレ
ポートでなければならぬのではないかと？

首藤 — 経済問題の分析に關しては、これまでの話の通り
グラント半分、各国の出資半分ということではよいと思
える。

(以下 *Jeez* 側の提出資料につき国際的金利 30%
など、井上氏に説明を行ない、その確認を求めた。)

井上 — かんがいでは水の費用をとるとのことであるが、
低開発国の現状ではどうか、フレクトノット、ナムブ
ムでは？ これは本来低開発国では国が助成すべきもの
であるから、変なろえはつけぬ方がよい。

武田 — カンボディアはプロジェクトノット計画でも使用料はとらないことになっている。地価が上がるから税金収入が増加するという考で、直接農民からは水使用料をとらない。

大平 — タイのチャイナート・タムについて言えば、世銀の要求でレポートには徴収するように書いたが、実際にはタイ国政府はとっていない。

井上 — 如何にして *Sambor* をフィージブルにするかという点を考えて水使用料はとらないと決定したい。結局それには触れないことにすればよろしい。

日本でもとっていないことである。水使用料をとるとらぬはカンボディアの内政の問題である。

各部門の結論はきまつており、現在はそれをまとめる段階であり、舟航、洪水防衛、かんがい、水産については大したメリットは期待できず、結局電力に問題はしぼられてくる。

Sambor Reservoir 20億トンとして（利用水飛ぶくらい）大したこともない。一体総合開発と言いつながら何を錦の御旗とするか？。結局は電力となる。（再

ひカーナのボルタ河荆莖に言及)

徳野 — カンボディア政府が飛ぶべくようなものを強調する方がよい。サンボール計画が承諾諸計画の内最後にできるようでは拙いことになる。

首藤 — ヱイエンチャンまでの航路が出来るといふことではどうか？

井上 — あと20年したら飛行機で大量物質の輸送ができるという時代にそれは疑問だ。

以 上

